

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 高い志を持って学力向上に励み、進路実現に向けて主体的に取り組む生徒の育成 2 礼儀と節度をわきまえ、思いやりの心を持って良識ある言動ができる生徒の育成 3 心身ともに健康で、他と協調して未来を拓く創造性豊かな生徒の育成
(2) 現状と課題	1 入学当初より、生徒間の学習意欲や学力の差が大きいため、個に応じた指導を通して、基礎学力の定着が求められる。 2 生活面においても、様々な悩みを抱えている生徒や基本的な生活習慣が確立されていない生徒が多いため、全教職員の共通理解のもとに丁寧で適切かつ根気強い生活指導が求められる。
(3) 重点目標	1 社会人としての資質の向上 2 基礎学力の向上 3 進路目標の早期設定とその実現 4 保護者や地域との連携
(4) 結果の公表	学校ホームページで公開する。

学校整理番号	4
学校名	青森県立 青森東 高等学校
全日制の課程	平内 校舎 ・分校
自己評価実施日	令和3年1月27日(水)
学校関係者評価実施日	令和3年2月9日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 計3名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	(1) 他者への思いやりの心を持って人と接することの出来るような人間性尊重の精神と道徳性を持った生徒を育成する。 (2) 社会人としての基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。 (3) 生徒会行事の活性化を図る。	(1) 「生き方探究」「総合的な学習の時間」「特別活動」を通して、自己課題の発見と解決することが出来る資質、能力の育成を徹底する。②教育相談委員会を有効に活用し、不登校やいじめ等の問題行動に対応する。③随時個別面談を実施し、生徒の状況把握に努める。 (2) ①目標を持った学校生活、規則正しい生活リズムを習慣化させ、むやみに欠席や遅刻をさせない指導をする。②挨拶、礼儀、言葉遣い、服装容儀、時間厳守、提出期限厳守を普段の生活の中で実践させる。③養護教諭を通じた健康相談および担任と家庭との連絡を密に行う。 (3) ①生徒が主体となるように意見を尊重し、生徒が成就感、達成感を持てるように援助していく。②生徒減少に応じた学校行事を計画する。	(1) ①それぞれの時間を利用し、将来の目標や進路について、考えるきっかけを与えることができた。②今年度は教育相談委員会で検討しなければならないような、不登校やいじめ等の事案が無かったため、委員会は開催されなかった。③担任との面談は、随時実施された。 (2) ①「欠席および遅刻0日」は115日【3月2日現在】で出校日に対して約64.6%であり、昨年度よりは割合大幅に上がった。しかし、特定の生徒ではあるが、不注意な遅刻も依然と多く、改善に至らなかった。②様々な場面において指導してきたが、十分であったとは言えない。③今年度は保健室を利用する生徒がほとんど無かった。しかし、あらゆる場面を通して養護教諭が生徒に声を掛け、生徒の声に耳に傾け、担任との連携を密にできた。 (3) 学校行事、生徒会行事において、様々な工夫をして充実したものにできた。運動会は種目に工夫をし、生徒対教員・保護者の形態で実施。文化祭は町内文化祭に参加する形態で実施した。	B	(1) ①教育相談委員会が開催されなかったということであるが、不登校やいじめが無かったことは、生徒達にとって楽しい学校生活だったのではないかと思え、評価できる。 (2) 人数が7人でも、基本的な生活習慣を身に付けさせるのは難しかったのではないかと思う。遅刻が多かったことであるが、遅刻をしても出校してくることに意義があると考えている。 (3) 少人数での運動会や文化祭を拝見させていただいた。最初は少人数での開催を心配したが、生徒たちが立派にやり遂げたことを評価したい。	
2	(1) 生徒一人一人が主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身につけることができる学習環境を確立する。 (2) 教職員の資質向上や校内の教育課題解決を目指し、各種研修講座への積極的な参加や校内研修の充実を図る。	(1) ①アクティブ・ラーニングを導入した指導法を実践していく。②授業第一とした学習態度の育成を図り、教科担任との連携を密にし、成績不振に対する指導を徹底していく。③朝の小テストを利用し、主体的に学習する態度と基礎学力を身につけさせる。④学級文庫の活用により、生徒がより図書に触れられる環境を整備する。 (2) ①研究授業、公開授業および各種校内研修を積極的に計画、実施していく。②教育相談、特別支援関係の指導スキルを高めるため、外部研修講座への受講を奨励する。	(1) ①授業改善に対する研修として、教員間での『互見授業』の形で研修を実施した。また、研究授業では今年度導入されたタブレットを活用した授業が行われ、アクティブ・ラーニングの観点から研究授業が実施できた。③朝の小テストでは、社会で出てから困らないよう、進路指導面から、基礎学力向上のための漢字テストを実施できた。④閉校に向けて書籍の整理を行わなければならなかったが、学級文庫を設置し、生徒が気軽に書籍に触れられる環境を整備した。 (2) ②今年度は、新型コロナウイルス感染予防の点から、外部研修講座が相次いで中止となった。	B	(1) 今年度の野外実習への取り組みは大変良かったと思う。もっと早くから取り組んでいければと感じている。 (2) 職場でもリモートでの研修が多かったと感じている。今後は、リモートによる研修が増えていくのではないかと考えている。また、その対応が今後求められる。	
3	(1) 生徒が自ら目標を設定し、その達成のために粘り強く取り組む生徒を育成する。 (2) 個人の能力・適正に応じた進路指導を目指す。	(1) ①教科と連携を図り、自己分析や将来の生き方を考える機会を与え、根拠を持った意志決定や行動選択に繋げていく。②会社見学や学校見学への積極的な参加を促していく。 (2) ①進路情報の提供、三者面談、進路説明会の充実により、生徒と保護者の進路意識の喚起、高揚を図る。②出願指導や面接指導の充実を図る。	(1) ①教科と十分に連携を図り、生徒の進路志望達成のために、進路指導部および各教科間との連携を十分に図ることができた。今年度は共通テスト受験希望者があったため、長期休業中に進学講習を実施した。②会社見学や学校見学を積極的に参加させ、具体的な進路志望の設定を行わせた。 (2) ①生徒、保護者、担任による三者面談を行い、進路志望の早期設定とその実現に努めた。その結果、ほとんどの生徒が進路先を確定させた状態で卒業式を迎えることが出来た。②就職試験・入学試験に向け、すべての教員で面接指導を対応するとともに放課後や長期休業中に特別に試験向けの指導を実施した。	A	(1) (2) 進路の達成状況については、特に助言はありませんでした。生徒の進路が決定していること、また十数年ぶりに公立大学への進学者が出たことについて、高く評価して頂いた。	

4	<p>(1) 生徒、保護者、教職員が互いに触れ合い、共通理解を深める。</p> <p>(2) 外郭団体との連携を強化し、活動の活性化を図る。</p>	<p>(1) ①運動会や平校祭での保護者から生徒の活動へのサポートが、今まで以上に充実する体制づくりを行う。②PTAの運営にあたり、保護者間や保護者と教員のネットワークを高める工夫をする。</p> <p>(2) ①外部主催の研修会への積極的な参加を促し、研修の充実を図る。②各団体との活動が計画的に行われるように連絡を密にし、適正な業務を遂行する。</p>	<p>(1) ①保護者参加型とした運動会では、多くの参加を得られた。また平校祭では、生徒が出店した模擬店を陰から手伝いしていただき、生徒の活動へのサポートをすることができた。年2回の予定していた朝の一声（挨拶）運動はコロナウイルス感染予防の観点から中止することとした。②渉外部を窓口として、密に連絡を取り合うことができた。</p> <p>(2) ①今年度は、コロナ渦の影響でPTA全国大会が中止になるなど、多くの外部主催の研修に中止になったために、十分な研修が行われなかった。②図南会は、税理士・司法書士と密に連絡を取り合い、問題無く解散することができた。</p>	B	<p>(1)(2) コロナ渦を上手く利用して、生徒、保護者、そして教員が一つになれた1年であったのではないかと、高く評価している。</p>	
---	--	--	--	---	---	--

(11) 総括	<p>生活指導では挨拶の励行、言葉遣い、服装容儀、授業規律等、学校生活全般において今一步徹底できない部分があった。高校卒業後に就職をする生徒が半数を超える本校にとって、社会人としての挨拶の励行、目上の人に対しての言葉遣いや礼儀は重要な部分である。キャリア教育については、進路指導部と学年が協力して様々なガイダンス等が継続的に実施され、結果として、3学年の進学、就職の決定にも結びついた。学習指導では学力差が大きく、更に個に応じた指導が求められたが、1年次より基礎を大切にした学びによって、個人差はあるものの十分に成果があるものであった。本校は今年度をもって閉校となる。次年度に向けての課題や改善策はありませんが、卒業生たちが本校で学んだことを生かし活躍して欲しいと願っている。</p>
---------	--